

3 心に残っていた絵本との再会 あの時の悲しみを いま伝えていきたい (りぷりんと・すぎなみ 渡辺文子 75歳)

『かわいいそうなぞう』いかがでしたか。これから、おぼあさんの子ども時代のお話をします。

私が『かわいいそうなぞう』と出会ったのは、長男が小学校の時の教科書でした。かわいいそうな余り、泣きながら読みました。

『かわいいそうなぞう』



つちや ゆきお 文 たけべもといちろう 絵
金の星社

戦争中、上野動物園で三頭のゾウが殺されました。これは本当にあった悲しいお話です。毎年終戦記念日に評論家の秋山ちえ子氏が平和への願いをこめてラジオで朗読し、テレビでも紹介された名作。(出版社HPより)

- 発行: 1970年8月
- ページ数: 32ページ(B5判)
- I S B N: 978-4-323-00211-8

終戦の翌年に国民学校に入学した私は、

戦争の記憶はおぼろげですが、その頃のことを思い出しておりました。長兄が医師を志して国立の医学専門学校に合格したのに、海軍特攻隊に志願して入隊し、海軍の制服の白の帽子と制服の写真が送られてくると、家族全員が身を正して家族写真を写して兄の元へと送ったこと…。

その兄も出撃前に終戦となり、帰って来ました。帰って来てからの兄は、戦争のこととは一言も口にしませんでした。一度だけ戦友が新聞に出ていた時、「特攻隊の仲間だ。」とポソツと言ったのを憶えています。兄にとって戦友は特別な存在だと感じました。その兄も90歳に近づいて、がんのため余命も短くなった今、口にしなかった戦争に行った頃のことを話してくれます。

戦争も終わりに近づいた頃、若人は戦争に送られたようです。校長先生が鉢巻をして旗を振って入隊するようにと、ほぼ命令的だったようです。前途有望な若者の人生をどれだけ狂わしたことが胸が痛みます。また、私の友達でお母さんと弟さんと3人

で疎開してきた子がいました。食べるものも事欠くような生活だったと思いますが、彼女は負けませんでした。弟さんと共に立派な大人になりました。

やがて長い年月が過ぎ、幸せなことにシニアの読み聞かせ団体「りぷりんと」との出会いがあり、そのガイドブックである『子どもとシニアが元気になる絵本の読み聞かせガイド』(注)を読んで、心の中に住んでいたかわいいそうなぞうと再会しました。

戦争の記憶が少しでも残っている年代も我々が終わりだと思えます。今年(戦後70年、日本にもこんな悲しいことがあったことを知ってほしい、忘れないでほしい)と思い、小学校で読み聞かせをしました。

70年前、上野動物園では、多くの動物たち、ライオンやトラ、そしてゾウ3頭も殺されていきました。子どもたちは、どの子どもも一言の私語もなく聞き入ってくれました。「かわいいそう〜」というのが一番多い反応でした。「うちのおじいちゃんも戦争に行ったよ。」「そんな殺し方はかわいそうだよ。」「小さな子どもが言ったのが心に残っています。目に涙を溜めている子どももいました。

幸せな世の中がどんなに大切かとわか

る子どもに育ってほしい、そして次の世代にも伝えてほしいと願っています。

注: 『子どもとシニアが元気になる絵本の読み聞かせガイド』現役シニアボランティアが選んだ「何度でも読んであげたい絵本」101選(世代間交流プロジェクトりぷりんと・ネットワーク)編著 ライフ出版 2008年)

りぷりんと・すぎなみ(東京都)

問い合わせ先: ゆうゆう菰窪東館
TEL&FAX 03-3398-8738
(担当: 小高久美子)



子どもたちの目を見て優しく語りかける(筆者)